

【所信】 地域共同体の活性化を目指して

【副理事長】 市川 心之輔

所沢市は、近年暮らしやすいまちとして注目され、2022年の市民意識調査報告書では、まちへの愛着度、定住意向は80%を超える高い数値が出ています。また、今後も所沢駅周辺の開発をはじめとした都市機能の向上が予定され、さらなる発展が期待されています。このこと自体は大変喜ばしいことですし、物理的な豊かさや行政サービスの満足度が高いまちを目指すことは、まちで暮らす人々にとって良いことです。

しかし、JC宣言綱領に記載されている、「明るい豊かな社会」が人々の幸福の上に成り立つと考えるならば、このような比較、相対化が可能な物事にばかり注目しては、人々に幸福は訪れないと私は考えます。何故なら他人と比べて比較優位な状況であれば幸せですが、比較劣勢になれば不安や嫉妬といった感情に捕らわれ不幸になってしまうからです。このような自らがコントロールすることのできない「他律的事象」によってもたらされる幸福感は脆弱であり、現代社会に生きる私たちにとって必要なことは「自律的な幸福」を求める姿勢です。

では、自律的な幸福とはどのようなものを指すのでしょうか。著名な心理学者である、アルフレッド・アドラーは幸せの3条件として、「自己受容」「他者信頼」「他者貢献」が必要と語っています。ありのままの自分を受け入れ、他者を仲間と信じ、誰かの役に立っていることを感じ、自らの価値を実感するということです。この条件を満たすことが幸福に繋がるのであれば、地域共同体が衰退し続けている現代日本社会はどうでしょうか。近年では、日本人の約4割が孤独を感じているというデータがあります。この現状は他者との関わりの薄さと、日本人の幸福度が主要先進7カ国の中で最下位であることの関係性を表していると共に、他者との関わりを増やし助け合いの精神を育むために地域共同体を活性化する必要性を示しています。

公益社団法人所沢青年会議所はところざわをより良くするために60年にわたり活動・運動を続けている団体です。今こそメンバーの一人ひとりが自らの理念を持って、他者の幸福のために社会の課題解決に向かって思考し行動するときです。そうすることで、社会の明るい未来、自らの成長と幸福、その全てを実現することができると信じています。

私は2024年度まちづくり室担当副理事長として、まちを構成する数多くの要素と可能性を人々と分かち合あえるように地域共同体の活性化を目指す運動を展開し、それがところざわ特有の魅力と付加価値になる事業を行ってまいります。